

第9回学術及び総合情報処理センター 研究交流・連絡会議報告

図書館情報大学総合情報処理センター 松本 紳*

開催日時：

平成9年10月2日（木） 15:00～17:30

開催場所：

図書館情報大学研究棟1階会議室

参加者：

弘前大学2名、筑波大学1名、埼玉大学2名、千葉大学4名、
東京農工大学1名、東京工業大学1名、電気通信大学1名、
山梨大学1名、新潟大学1名、富山大学2名、金沢大学1名、
信州大学1名、岐阜大学2名、神戸大学2名、広島大学2名、
徳島大学1名、愛媛大学1名、熊本大学2名、鹿児島大学2名、
図書館情報大学3名

資料等：

- (1)出席者名簿、座席表
- (2)第9回学術及び総合情報処理センター研究交流・連絡会議議事次第、会議資料
- (3)WWW 運用関連規程集
- (4)第9回学術及び総合情報処理センター研究交流・連絡会議提案議題
- (5)「学術情報処理研究」投稿規定 平成9年度（暫定版）
- (6)学術及び総合情報処理センター研究交流・連絡会議等開催一覧
- (7)学術情報処理研究 NO.1 1997

* 〒305-8550 つくば市春日1-2

TEL：0298-59-1308 amy@ulis.ac.jp

議事次第：

- (1)開催校挨拶 図書館情報大学副学長 山本 毅雄
- (2)「学術情報処理研究」発刊と研究集会開催の経緯について
図書館情報大学総合情報処理センター長 田畑孝一
- (3)出席者自己紹介
- (4)「WWWの運用についてのアンケート」について
- (5)2000年問題への対応について
- (6)「学術情報処理研究」及び研究集会の在り方について
- (7)次期開催校候補の選出について
- (8)「学術情報処理研究」次期編集委員会の発足について

議事内容：

- (1)各大学に事前にお願したWWWの運用に関するアンケート調査の集計結果をもとにセンターが関わっているWWW運用の問題点等を議論した。また、WWW運用に関する規程等が整備されている大学の実例などが紹介された。
- (2)西暦2000年問題の対応をセンター全体で取り組んではどうかとの提案が信州大学よりあった。各大学がどのように西暦2000年問題を把握しているかをセンター長会議開催校の熊本大学に調査していただき、センター長会議の議題として提出することになった。
- (3)研究誌・研究集会のありかたについて当面の間、運営母体は学術及び総合情報処理センターで行うものとするが、投稿者の制限を広げていく方向で行うことが確認された。また、それにともない投稿規定の見直しを新編集委員会で行うこととなった。
- (4)次期開催校候補として山口大学に願
いすることとなり、次回のセンター長会議に提案することになった。
- (5)「学術情報処理研究」の次期編集委員会の立ち上げを早急に行うことになった。メンバーは、熊本大学、図書館情報大学、山口大学、金沢大学から出すこととなった。

第1回「学術情報処理研究」研究集会

日時：

平成9年10月3日（金） 10：00－15：00

場所：

図書館情報大学研究棟1階会議室

発表論文数：

10件（発表15分、質疑応答5分）

学術情報処理研究投稿規定

平成10年4月16日制定

1. 本誌に掲載する記事は未発表のもので、その分野と種類は以下のとおりとする。

分野

- (1)学術情報処理の研究・開発、教育に関するもの
- (2)学術情報処理施設の設計・管理・運用に関するもの

種類

- (1)査読付き論文
- (2)学術情報処理研究集会予稿
- (3)解説
- (4)報告
- (5)その他

2. 投稿者は、原則として、大学の総合情報処理センター及び情報処理センター関係者・利用者とするが必ずしもこれに限るものではない。
3. 査読付き論文の場合、投稿者は原稿2部（1部はコピーでもよい）を編集委員会に届けるものとする。その他はそのままオフセット印刷できる形の原稿を1部届けるものとする。また、それとは別に電子的媒体（フロッピーディスク、電子メールなど）による原稿も一部届けるものとする。
4. 査読者は編集委員会の議を経て編集委員長が、その該当分野の専門知識を有する者に依頼する。1名による査読者が掲載不可と判断した場合には、さらに2名の査読者の判断をもって掲載の可否を決定するものとする。
5. 本誌に掲載された著作物の著作権は、すべて編集委員会に属することとする。
6. 本雑誌は冊子体で配布するほか、同じ内容がWWWにより公開される。
7. 査読付き論文の場合は有料で別刷50部を最低とし、それ以上は50部単位で受け付ける。
8. 著者校正は1回とする。校正の際に原文を大きく改変することは許されない。
9. 原稿は原則として返却しない。返却希望があれば、返信料を添えて投稿時に申し出ること。

10. 原稿の分量は以下の文字数を目安とする。

査読論文	～20,000文字程度（A4 40行×43文字で	～12ページ程度）
研究集会予稿	～10,000文字程度（A4 40行×43文字で	2～5ページ程度）
記事等	～10,000文字程度（A4 40行×43文字で	4～6ページ程度）

上記は図表を含む場合は、それも含めた目安とする。

11. その他詳細は、別途「原稿の作成の手引き」によるものとする。